

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：依 外代吉 幹事：本岡三千郎

情報委員長：吉田富士夫

1987・12月10日 第355号

ドラマ製作うら話

NHK金沢放送局長 沖野 瞭氏



金沢が舞台の大河ドラマをといたお話が、金沢着任の翌日から経済同友会の清水、浅田、本岡、米沢の各氏からありましたが、揃って北RCの方々であったとは驚きました。

大河ドラマを成功させる決め手は、原作を刈込み、補う脚本の面白さによるので、人気がある俳優を集めて成功した例はありません。

現代を否定し、悲観的に見る人より、肯定して生きる人たちが、歴史の面白さを読み取れる脚本です。今の世の中を、全て良いと思う人はいませんが、トータルとして、今の体制をいいと感じ、そ

こで苦悩し、考えながら生きている。そんな人を勇気づける作品であることが、大河ドラマの背負う宿命です。ですから人間の暗い面や、狡い人も描きたい。しかしそんな人は主役にはなりません。いつも時代に対して前向きであり、ある部分は時代を先取りして、つくっていった人物しか主役にはなれない宿命があります。見る人が時代に何を望んでいるか、女は美しく男は雄々しい、信長、秀吉、家康、忠臣蔵といった、誰にも魅力のある主役はそんなにいないんですね。

今度、独眼竜政宗をやったのは、今までに主役にする話が出た時に、政宗がなれなかった理由が、時代に遅れて生きた青年、云ってみれば、時代を開く英雄、豪傑が出た実力主義の戦国に、少し田舎にいて、ちょっと乗り遅れ、時代を取り損ねた人だったわけです。

それを突破したのは、恐らく現代が、高度成長を生き抜いた人がまだ社会の主流にいて、心の中に余音を残しており、安定期に入って、実力があるのに遅れた人が、非常にシビアにやらねばならない。のびのびとベンチャービジネス風にワッとやれば、失敗もするが成功も大きいと云う時代でなくなった。その中で彼ならどう生きていくかが、人々の心のどこかで繋がるということで、初めてあの主役が出たと思います。

金沢で云えば、主役として出る人物は、前田利家と銭屋五兵衛しかないと思います。前田さんはリーダーではなく参謀です。時の流れによっては、参謀の主役も必要で可能性はありますが、今はその時ではありません。むしろ長編ドラマにして面白いのは、女性の時代でもあり、前田三代にわたる女たちです。

地域の活性化と云うのは、もの欲しげに聞えて好きではありませんが、銭五が埋もれているのは残念だと顕証したい気持は、地元には純粋にあると思います。一族誅滅され獄死、河北潟干拓に毒と、庶民からも恨まれているが、暗い反面で海外貿易への新しい眼を持ち、地域間に不便だった情報収集を、雪雲の重なる海の北前船で商利を上げた現代に通ずる明るさもあります。銭五にはまとまった文芸作品の無いのが欠点で、誰かに書いてほしいと思いますが、それには世人の口の端にのぼるように、表面に出さねばなりません。その援けになればと、来春2月から3月の8回、ラジオの日曜名作座に舟橋聖一の「海の百万石」を採り上げることになりました。これを機会に私の手を離れても、舞台やテレビで、主役が実現すればと願っています。

—金沢北RC例会講話より— (文責 吉田富士夫)

私の職業奉仕

小泉 隆一



私どもの社是に「損害保険事業を通じて社会公共に奉仕し、その福祉と繁栄に貢献する」という一節があります。損害保険の普及度はその国の文化のバロメータを示すといわれますが、その社会、その地域において損害保険の普及に務め、個人の日常生活や企業経営の安定にお役に立てることが私どもの使命であり、奉仕であると考えております。

日本では「安全と水はタダ」といった独特な考え方もあったのですが、個人生活や企業の変化により、危険が複雑化・多様化し万全の予防措置を講じても、事故や災害の発生が防止できなくなっており、アメリカと同様に安心と安全にはコストがかかるものだという考え方に変わりつつあります。

アメリカではご承知のとおり自己の危険は自分で守るという思想が根本的にあるため、損害保険の普及率は世界一です。そして、損害保険がないと生活や企業経営に支障をきたすまでに社会状況がなっています。損害率が悪化すると保険の引受が厳しくなり、保険を買えない医師や企業が廃業するといった話も聞かれます。しかし、日本の場合は保険行政や風土からしてありえないことと信じています。

損害保険には身近なものとして火災保険、自動車保険、ホールインワン保険等があり、最近では補償機能と貯蓄性を兼ねた積立長期が増えています。将来は賠償観念の発達にともなって個人、専門的職業家、企業に賠償責任保険が浸透していくものと思っています。

これからも私どもはお客様のニーズに適應した保険を開発・ご提供し、みなさまに安心した生活と企業経営を営んでいただけるよう努力したいと考えます。

しかし、保険商品は一般の商品と異って無形であり、事故があってはじめて商品価値が機能するわけです。それだけ、事故が発生した時の充実したサービスと迅速かつ適正な保険金の支払に心がけることが大切な仕事とっております。

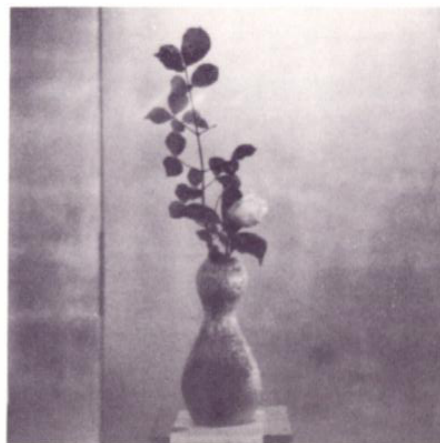
また、事故や災害防止のため防災サービスや自動車安全適性検査などの安全対策にも積極的に取り組んでおります。

これからは損害保険を取扱う代理店のみなさんと共に「安心と安全の総合コンサルタント」として、金沢のみなさまに損害保険のサービスと普及に努めていきたいと考えています。

今週の花

吉山 宥海
(11月5日)

西 王 母
ま ゆ み



ベルギー旅行記

ベルギー短期交換学生 浅田 松太

今年の夏の一ヶ月間、ロータリーのベルギー短期交換学生としてヨーロッパを訪問して来ました。最大の目的である2週間のベルギー・ホームステイを間にはさんで、総勢49名で、ヨーロッパの各都市を訪ずれたのです。今回のプログラムは毎日毎日が本当に楽しく、かつ貴重な日々で、一生忘れられない思い出になりました。

ベルギーのリエージュという街。そこがマドリッドから始まってイタリア、スイス、ドイツのハイデルベルグと続いた前半の旅行の終点地でした。2週間の短い間とはいえ、ホストに受け取られる時は、期待する反面、不安も大きかったです。それまでがあまりにも楽しい毎日だったので、皆で待ちながら、このままずっと一緒に旅行ができればいいね、などと話していました。「あなたがショウタね、写真がいいからすぐわかったわ」と、顔写真がはってあるアプリケーションを持ってホストのお姉さんが近づいて来ました。正直言って倍は老けて見えたけど、感じの良い20才のお姉さんと、やたら明るいお父さんのお出迎えでした。第一印象が良いと、大抵全て良いものですけど、思った通りと言うかそれ以上に素晴らしい家庭に恵まれました。20才のお姉さん、パトリシアは年齢が近かったのでいつも一緒に行動してくれました。彼女は、とにかくスポーツが大好きで、テニス、ゴルフ、水泳、ラケットボールどれもとても、敵いません。海も大好きで、何かと車を飛ばして海岸に行きました。今年のベルギーは異常な冷夏で、セーターを着ていても寒い日があった位ですが、そんな日でも海岸は人であふれてました。もちろん泳ぎはしないけど、たまに射す日光を求めて人が集まって来るみたいです。ベルギーの人にとって日光浴は夏の習慣の様な感じですが、晴れた日のお昼にはお父さんも会社から帰って来て庭で裸になってました。

パトリシアのボーイフレンド、ハンズは、大変な親日家で驚きました。「日本人は良く働いて素晴らしい技術で素晴らしい製品を作り、世界において重要な経済大国になった。それは誰でも知っているし、文化とか食べ物とかの面での日本ブームも今ではすっかり浸透して落ち着いた様に思う。でも僕達が本当に知りたいのは、普通の日本人の生活なんだ。大企業サラリーマンの仕事の様子なんかは紹介されても僕達と同じレベルの人達の生活はどういう感じなんだろうと思うよ、お互いを理解し合う為にこの様な交換学生のプログラムは素晴らしいね」僕もそう思っています。彼は26才で今、親の小さな工場を手伝っているのですが、是非来年、ベルギーの学生達と一緒に日本に来てほしいと思います。

今回のプログラムに参加して本当に良かったと思うのは48人の素晴らしい友達を得たことと、ホームステイを通じて多くのベルギーの人と知り合えたことです。これからも、この人との出会いを大切にしていきたいと思います。この様な機会を与えていただいた金沢北ロータリークラブの皆様お世話になった北川さん、稲垣さん、本当にどうも有難うございました。



